



と き
時 空 の 旅 人

～台湾の歴史をさがしに～

「物が空間を変容させるのではなく、ただ人々の物語が繰り返し上演されている」——『藍い家』

蔡素芬
(サイ・ソフン)

撮影／張嘉輝

1963年生まれ、台湾・淡江大学中国語文学学科卒業の後、アメリカ・テキサス大学サンアントニオ校大学院へ留学。高校の頃より小説を書き始め、若くして数々の文学賞を受賞する。装飾を削ぎ落とした内省的な筆致で、女性作家ならではの繊細な心理描写を作風とし、やわらかな眼差しで歴史を捉え、新たな地平を台湾の郷土小説に切り拓いてきた。1993年、『明月』で、聯合報長編小説賞を受賞。同作は、後に台湾の公共テレビ(公共電視)でドラマ化される。1998年、『オリーブの樹』で中興文芸賞を受賞。2014年、三作目の『おしゃべりな星たち(仮題)』を刊行。20年という時を費やして完成させたトリロジーは、主となるエピソードこそ違うものの、登場人物は相互に関連を持つ。台湾の異なる世代を取り巻く社会環境が丁寧にあぶり出され、各々の人生のめぐり合わせが描き出されている。

著書はそのほかにも、長編小説の『姉妹書(仮題)』、『キャンドルの饗宴(仮題)』、短編小説集の『台北駅(仮題)』、『海辺(仮題)』、『花の涙をあしらった象(仮題)』などがある。『キャンドルの饗宴』は、週刊アジアが選ぶ十大華語小説ならびに台湾出版界の最高栄誉「金鼎獎」に輝く。2021年、実に5年ぶりとなる長編作品『藍い家(仮題)』を新たに発表。

「ご愛読ありがとうございます。読書は、私たちの心を通わせてくれます。

異文化へのいざないに導かれてみませんか？

もしかしたら向こう側に、あなたの心に深く刻まれる何かがあるかもしれません」

蔡素芬

『藍い家』



一客の錫製タンブラー、菊の形をした一枚の鉄鑄、一台の掛け時計または羅針盤……、一つひとつの物に刻まれたさまざまな物語。一体、誰が遺していったのだろうか？ これらの物たちに並々ならぬ情熱を注いだであろう持ち主は、どういう訳で置き去ったのか？ これらの物たちはまた見知らぬ誰かの手に渡るのだろうか？ ——数々の古い物に秘められた記憶やストーリーをなぞることで、数百年にもわたって植民地支配された台湾の歴史を立体的に浮かび上がらせる、蔡素芬待望の長編小説。

小説の主人公である空間デザイナーの華生(ファシェン)は、とある美術店から藍い家が描かれた一枚の絵を気に入り持ち帰った。洋式ながらも門の扉の把手は東洋的な獅子の頭の門鉞となっており、ツヤやかな光沢は旅情を掻き立てた。吸い込まれるかのように近づき、触れた瞬間……華生は絵の中へ迷い込んでしまう。異空間での旅路を進めるはめになるも、絵の中の物たちに次第に惹かれ執着していく。同じ頃、宮崎県で長年ホテル勤務をしていたガールフレンドの露西(ルーシー)は台湾へ戻り、淡水の埠頭にある老舗旅館で働きはじめる。華生に代わって大航海時代の交易について調べていくうちに、幾世代にもわたって守られてきた旅館の歴史を遡ることとなる。

一枚の絵によって、開かれた藍い家と名付けられた門の扉。港の旅館を通して、再び解き明かされる淡水の貿易史。古い物たちに秘められた想い、行間からほとぼり出る謎を解き明かしたい欲望……怪奇幻想なタッチで

「物語は、人生における擦痕きずに深く刻まれていく。あの時とこの時が交錯し合い、日常のあらゆるシーンが繋がれていく。彼女もまたある時は向こうへ行き、ある時はこちらへ戻ってくる」

——『藍い家』

蔡素芬の代表作



『明月』 鹽田兒女

1950年代の台南を舞台に、破綻した婚姻と己の運命を受け入れた人々のしたたかで真摯な姿を描いたヒット作。海風に打たれ、炎天に晒されてもただじっと耐え忍び、規範に縛られた保守社会を慎ましく生きる女性の葛藤が、滋味深い文章で綴られている。台湾で累計10万部を突破したベストセラー小説。

ISBN | 9789570843941
出版社 | 聯經
出版日 | 2014/04/30
邦訳本は桜出版より2014年に刊行



『オリーブの樹』 橄欖樹

『明月』の続編。時はフォークソング黄金期の1980年代。遠い場所に馳せる思いや憧れを歌った一曲の民謡が、台湾の大学生の間でもてはやされる。2世代にまたがる母娘の生き様と恋の行方、そして夢追う若者たちの青春が、みずみずしい筆致で描かれている。

ISBN | 9789570843958
出版社 | 聯經
出版日 | 2014/04/30
邦訳本は桜出版より2016年に刊行



『おしゃべりな星たち』 星星都在說話

『明月』三部作の最終章。紆余曲折の後、遠く離れた場所に根を下ろし、そこで20数年という月日が過ぎ去っても、愛や結びつきに対する渴望は満たされることはなかった。登場人物たちのその後の展開をなぞりながら、市井に生きる人間の根底を真摯に問う。

ISBN | 9789570843934
出版社 | 聯經
出版日 | 2014/04/30



『姉妹書』 姐妹書

台湾とアメリカ、太平洋で隔てられた姉妹の往復書簡。恋や結婚、日常におけるさまざまな気づきが、平易ながらも温かい言葉で交わされていく。喜怒哀楽に満ちた暮らし、互いを思いやる姉妹の笑いと涙が詰まった一冊。

ISBN | 9789863232919
出版社 | 聯合文學
出版日 | 2019/01/21



『キャンドルの饗宴』 燭光盛宴

歴史の荒波に激しく運命を翻弄された3人の女性の物語を交差させ、そこに作家の自己投影も重ねてつなぎ合わされたシスターフッド小説。揺れ動くナショナル・アイデンティティに一筋の光を灯す。

ISBN | 9789574446278
出版社 | 九歌
出版日 | 2009/10/01

台湾の歴史を題材とした おすすめの名作



『大港の娘』 大港的女兒

台湾の歴史に関する本を数多く著してきた陳柔緜(チェン・ロウジン)初の時代小説。日本統治時代の打狗港を舞台に、時代の大きなうねりの中たくましく生き抜いた、高雄に生まれた女性の波乱万丈に満ちた生涯と、ノスタルジックな時代の雰囲気을丁寧に描いた意欲作。

ISBN | 9789863448426
作者 | 陳柔緜
出版社 | 麥田
出版日 | 2020/12/03



『陳澄波を探して』 陳澄波密碼

邦訳刊行予定

彼の絵は謎に満ち、彼の名前は決して口にしてはならない公然の秘密だった——。古い絵の修復依頼によって、台湾の美術家・陳澄波(ちん・ちようは)の数奇な生涯が、次第に紐解かれていく。日本統治時代と戒嚴令が解かれる前夜、2つの時間軸から紐解く歴史ミステリー小説。

ISBN | 9789573283928
作者 | 柯宗明
出版社 | 遠流
出版日 | 2018/10/27



『台湾漫遊錄』 臺灣漫遊錄

昭和13年、招待を受け渡台したある日本の女流作家が、通訳と一緒に縦貫鉄道沿線を遊歴して回った架空の滞在記。まったく異なる環境下で生まれ育ったふたりは、食と旅を通して互いの絆を深めていく。けれども戦争の足音はじわじわと押し寄せてくる。時代に翻弄される彼女たちの運命は何か？

ISBN | 9789869866262
作者 | 楊双子
出版社 | 春山
出版日 | 2020/03/31



『島嶼の浮世繪』 島嶼浮世繪

本作は時間旅行の指南書である。目的地は1895~1945の台湾。日本統治下における台湾庶民の暮らしはどのようなものだったのか？ 導き役で歴史評論家の蔣竹山(ジャン・ジュシャン)とともに時代の声に耳を傾け、活気に満ちた百年前の台湾島の暮らしが模擬体験できる一冊。

ISBN | 9789865504182
作者 | 蔣竹山
出版社 | 蔚藍文化
出版日 | 2021/01/07



『清水の子どもたち』 來自清水的孩子

邦訳刊行予定

主人公の人生そのものが、日本統治から戒嚴令が解かれるまでの台湾近現代史の縮図といえる。史実に基づいて描かれたマンガを通して、外来政権に抑圧され続けた、台湾が歩んだ有為転変の険しい道程をゆっくりと語り出す。たとえ傷だらけになっても、闇を照らす一筋の光が消えることはない。

ISBN | 9789869857307
作者 | 游珮芸, 周見信
出版社 | 慢工文化
出版日 | 2020/05/05